

河辺公民館 親子で学ぼう

おいしいそばができるまで…

◆ねらい

核家族化が進み、子ども達も地域の方々と触れ合う機会が少なくなり、地域のつながりの希薄化が問題視されています。そこで、そばを植えるところから、そばができるまでを一緒に体験してもらう中で親子が地域の方々と触れ合う場を作り、お互いの関係を築くきっかけづくりを図る。



◆活動の様子

まずは畑にそばの種を植えるところから…
持ったことのない鍬を持ち種を植えました。

江戸時代から使われている石臼でそばの実
を挽いています。重たい石臼に苦戦…



楽しく会話をしたり、協力したり・・・どんどん
お互いの距離が近づきました！！

◆効果

地域の方々がまずそばの実ができるまでを話してくださり実際に植えるところから指導してもらいました。江戸時代の人も使ったという重たい石臼を使って地域の方々に手伝ってもらいながら一緒にそば粉を作り、最後は親子、地域の先生達と一緒にそばを打ちました。コロナのこともあり一緒に食べることはできませんでしたが、最後はみんな和気あいあいとおしゃべりしながら笑顔でそば作りに精を出していました。出来栄はというと…あとはご想像にお任せいたします。(^^) こういう機会がどんどん増えれば地域のつながりの希薄化にブレーキをかけられそうです。

舟底の記憶のこれまでとこれから

(玉野市商工観光課、玉野市立中央公民館連携事業)

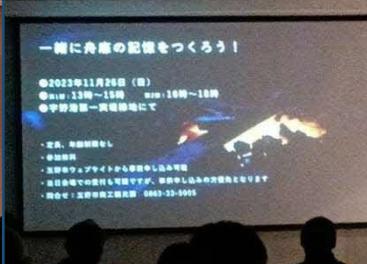
瀬戸内国際芸術祭 2013 から宇野港に設置されている小沢敦志氏の作品『舟底の記憶』。制作されて 10 年目を迎えた今年、作家小沢敦志氏をピックアップしたイベントを玉野市商工観光課との連携事業としておこなった。

ねらい 瀬戸内国際芸術祭が 2010 年よりはじまり、玉野市は 2013 年より正式に会場となった。玉野に人が賑わう機会の1つであり、主に市外・国外の方が多く興味を持たれている。次回開催 2025 年に向けて、玉野市内の方にも瀬戸内国際芸術祭にさらに興味を持っていただくため開催をする。

講演会「舟底の10年」

小沢氏がこれまでの 10 年どのような活動をしてきたのか、これからどのような展開をしていくのか、なぜ鉄を叩いて作品を作るのかなどお話をくださった。参加者の方からは、作家の話を直接聞くことでより作品を身近に感じられるようになったとの意見もいただいた。翌週におこなわれるワークショップ「一緒に舟底の記憶をつくろう！」の予告もおこない、集客を図った。

活動の様子



ワークショップ

「一緒に舟底の記憶をつくろう！」

『舟底の記憶』は、これまでにもワークショップをおこないながら鉄の廃材を付け足し増殖しつづけてきた。

『舟底の記憶』の作品の一部となる鉄を叩いてもらうという内容のワークショップであるが、終わりの時間まで途切れることなく参加者が集まった。

また、同日クルーズ船「にっぽん丸」も寄港し宇野港が賑わいを見せた 1 日となった。

成果 今後

瀬戸内国際芸術祭のアーティストと日頃から業務で接する機会のある「玉野市商工観光課」と、瀬戸内国際芸術祭サポーターである「こえび隊」のご協力あってこそこのイベントである。市民の皆様に講演会・ワークショップに参加してもらうことで、作品や作家、瀬戸内国際芸術祭に興味を持っていただき、理解を深めることができたのではないかと考える。今後も連携をしながら、玉野の観光の魅力の一つである瀬戸内国際芸術祭の関連イベントをおこない、市内の方にもより興味を持ってもらえ、楽しめることをしていきたいと考えている。

笠岡市城見公民館

『自分たちで創る音楽交流会 “奏で” 』

◆ねらい(解決したい地域課題)→実現させたい地域

公民館主導のイベントや、発表会は参加しやすいが、今回、講座・団体よりほかのサークルに提案があり、計画・準備・運営などについて協議し、自分たちで創る音楽交流会を実施することになりました。

令和5年3月16日(木) 城見公民館音楽関係団体懇話会

令和5年6月1日(木)「音楽交流会 “奏で”」実施に向けての話し合い

令和5年7月9日(日)「音楽交流会 “奏で”」開催 13:30~15:30

◆活動の様子(写真も入れて)



◆効果(参加者の声等)

発表会といえば、自分たちの発表が終わると、その場から離れて休んだり退出されたりしますが、今回は、そのまま鑑賞席にまわり、他の団体の発表を聞いたりして音楽の共有ができました。お互いのジャンルをしんしに聞く態度が見られた事は成果だったと思います。「次回は、少しでも参加者を増やしたい。」とか「ハーモニーあり、和太鼓あり、オカリナ・フルートの音色に酔い、歌声喫茶に元気をもらった。」との声がありました。自分たちで創った音楽交流会~大成功!!

かんく 北川冠句会



冠句って初めて聞きました。どんな句なのですか？



冠句は「五・七・五」の十七文字で作り、冠題として頭の五文字が出されるので、中句・下句を詠み完成させる句です。同じ五文字から、詠み人それぞれの世界が広がるところに、冠句の面白さがあります。



◇ねらい◇

「コロナ禍で行動制限が求められる中、少しでも地域のつながりを持ちたい」と令和3年度毎月発行している公民館だよりの中で募集を始めました。毎月約百句の応募があり、これまでに作品集（第4集）を作るまでになりました。

この度、第5集を作成するにあたり、対面でのつながり作りが出来たらと、呼びかけました。

◇活動の様子◇



北川公民館では、応募していただく際に、本名でもペンネームでもOKにしています。

「〇〇さん（本名）、いつもよく出しておられるね」
「△△さん（ペンネーム）、ってあなただったのね！」
と、和やかな雰囲気です。



いつもは公民館で編冊している作品集も、この度参加者の皆さんに綴じていただきました。



出来上がった作品集を読みながら、感想を伝え合ったり、次の冠題は何が良いか参加者の皆さんと話し合いました。



北川公民館だより（第四三三号）より

毎月、小学生～高齢者まで幅広く応募して下さいます。皆さまのお力で、約2年間続いています。今後も続けていきたい大切なつながりです。

◇効果◇

「次はいつ会がありますか」「このような会をたくさん作ってほしい」と嬉しいお声をいただきました。紙面でのつながりが、対面でのつながりになった事で、参加者の皆さんの意欲がより高まったようです。ご要望にお応えできるよう、計画をしていく予定です。

有漢公民館

「有漢町納涼ふるさと祭」を盛り上げよう！ ～長蔵音頭を引き継ごう～ 講座

◆ねがい

- 4年ぶりに開催される「有漢町納涼ふるさと祭」を主催者側も来場者側も老若男女みんなが楽しめる祭となるよう盛り上げたい！
- 途中で途絶えていた伝統芸能の「長蔵音頭」を4年前に復活させたきり、発表の機会を失っていたため、この祭を通して再復活させ、できるだけ多くの人に知ってもらい、かかわってもらい、踊ってもらい、楽しみたい！

◆活動の様子

「長蔵音頭」を知ってもらい、一緒に踊る活動

命懸けて村民を危機から救った当時の上有漢村川関地区の庄屋であった網島長蔵の偉業を後世に伝え続けるために作られた長蔵音頭をいろんな所へ出向き、出前突撃講座として、講話や踊りのレクチャー会をしました！



地元のこども園で



地元の中学校で



高齢者の通いの場で



「放課後子ども教室」で

大人も子どもも集った前夜祭！



祭りの前日には、子ども30名、大人30名が集い、長蔵音頭や他の盆踊りの練習会、カレーライスでの会食、ゲームなどでの交流会を楽しみました。片付けは、大人も子どもも一緒にがんばりました！

幾重もの輪ができた祭り当日の盆踊りの輪！

地元にある企業が「地域貢献になれば！」と約30名の踊り連を組んで参加。長蔵音頭発祥の地である川関地区の住民、地元のこども園、小中学校の子ども達、町内外の方々も一緒に踊り、盛り上がりました！



◆効果(参加者の様子等)

- 4年ぶりに開催された祭には、前回以上に大勢の人が訪れました。特に盆踊りの輪は、二重、三重、最終的には四重にも膨らみ、子どもたちも踊っていました。米寿を迎えた男性が、「私も踊りましたよ！」と踊った直後に声をかけて下さり、思わずハイタッチしました。皆が一つになれた盆踊りだと感じました！
- 途絶えかけていた有漢町の伝承文化を絶やしてはいけないと奮闘した元地域おこし協力隊員の想いを公民館が引き継ぎ、「長蔵音頭継承実行委員会」と共に、集っている場所があれば出向いて、厚かましくも地道に伝承した活動が一定の効果を生んだと感じています。次の世代への伝承も仲間と続けます。

哲西きらめキッズ 第2回体験活動

★アマゴをつかみ取り、さばく!!



★自分で火をおこし、焼く!!



★ハンゴーク飯でおにぎりとアマゴを食べ!! 🍱



9月23日(土) 9:00~12:00

(受付は、8:30から、雨天も実施)

場所:道の駅鯉が窪 裏の広場

参加費等:300円とお米一合

◆ねらい (解決したい地域課題)

本地域は、少子高齢化が急速に進み、子ども同士の遊びもゲーム中心のものが多くなっている。外で遊ぶ機会が減ることで、多様な生活体験や困難を乗り越えるたくましさが少なくなりつつあるようにも感じる。そこで、地域の大人による地域の子どもの育てる団体「哲西きらめキッズ」を立ち上げ、昨年度が第1回、今年は公民館活動として第2回目の体験活動を実施した。

◆成果 (身についた力)

今回は、30名の定員いっぱいの参加申し込みや、保護者の参加、ボランティアの協力などがあり、多くの人のつながりができた。子どもたちに、①つかみどり、さばく、②火起こし、③おにぎりと魚を食べるという体験をさせるために実行委員会を重ね、市から道具類を借用し、魚のさばき方は道の駅の駅長に依頼した。生きたアマゴを当日の朝、湯原漁協から運ぶという困難もあったが、子どもたちがみんな自分で体験し、魚も喜んで食べたということに、スタッフ一同次回の活動に向けてまた意欲が高まった。

不動産登記法改正による相続のおはなし講座

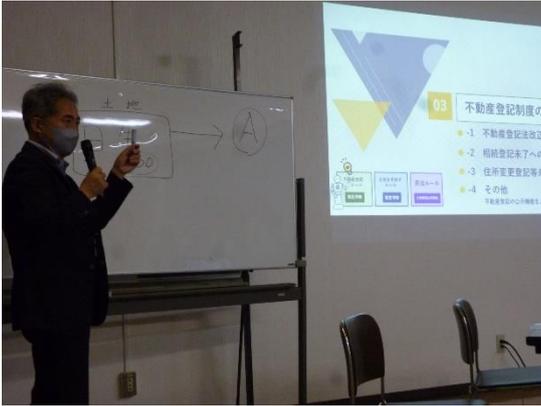
◆ねらい（解決したい地域課題）

- ①所有者不明土地の解消
- ②所有している不要な土地への対策
- ③管理困難な土地の問題への対応

実現させたい地域の夢

安全なまちづくり

◆活動の様子



講師：岡山地方法務局 備前支局

開講日：6月15日（木）

参加者：13名（男性：3名、女性：10名）

内容

第1回では、所有者不明土地問題の現状や解消するための方策、不動産登記制度の見直しなどのついでの説明していただきました。

講師：岡山地方法務局 登記調査官

開講日：8月31日（木）

参加者：20名（男性：7名、女性：13名）

内容

第1回が好評につき前回の受講生の関心が高かった相続土地国庫帰属制度について説明していただきました。



◆効果（参加者の声等）

- ・不動産関係の制度について実務に関わっている登記調査官からお話を聞いて良かった。大変分かりやすく理解することができました。
- ・自分が実際に相続をする年齢になったので、受講し話が聞いて助かりました。

牛窓町公民館

古地図・古写真で牛窓さんぽ

～しおまち唐琴通り編～

◆ねらい（解決したい地域課題）

地域の歴史や文化を知らない人が多い。またコロナ禍や高齢化により公民館利用者数や市民が集まる機会自体も減っている。地域の歴史や文化を学び、伝承していくことにより市民が交流し、支え合う地域をめざす。

◆活動の様子



はじめりは写真展から！

コロナ禍で3密を避けた事業を企画することになり、NPO 法人との共催で、港町牛窓の明治から昭和に撮影された写真などをロビーに展示したところ、地元の郷土史研究家が来場し、職員に写真の解説をしてくれた。



ギャラリートークを開催

大変わかりやすく学びが多かった解説を皆さんにも聞いてもらいたい。

写真の場所に行ってみたい！！今はどうなっているの？

写真に写っている場所のいま、むかしを比べたり、地形や江戸時代の牛窓についても学んだりして、より地域の歴史や文化を知ってもらいたい。郷土史研究家に講師を依頼し、写真展の派生として古地図や古写真を見ながら約2kmを歩く講座を実施。



◆効果（参加者の声等）

参加者からは、「普段何気なく通っている道に、歴史的に価値がある建物などがあることがわかった。」「見慣れた風景だが、学んだことで見えてくるものが変わった。」などの感想や観光ボランティアや民話の会、学校現場などそれぞれが行っている活動に生かしたいなどの発展的な声も多く聞かれた。道中で地元の方々と出会い、急遽「だんじり」や古い写真を見せてもらって語らうなどの交流もあった。訪れる地区を変えながら講座をシリーズ化して、歴史や文化の伝承を通じた地域づくりを広げていきたい。

こども料理教室

◆ねらい（解決したい地域課題）

小学生になってくると、家族の一員として、役割を担うようになる。そして、「食」に対する関心が高まってくる年代でもある。しかし、そういった家族の役割や食について学ぶ機会が少ない状況にある。そこで、小学生を対象にした料理教室を企画し、地元のシェフを講師として、料理の基礎基本を学ぶとともに、料理を通じたコミュニケーション能力の育成（協力の必要性）に取り組んだ。

◆活動の目的

- 料理への興味関心、きっかけ作り
- 料理の基礎基本の習得
- コミュニケーション能力の育成（協力の必要性）
- 真庭産の食材・調味料などを使った「郷育」

全4回の教室で、最終日にお家の人に料理を作って可否は、お家の人への食レポで判定！

◆活動の様子 STEP 1

- ・ご飯の炊き方
- ・味噌汁の作り方
- ・包丁の使い方



ご飯の炊き方

◆活動の様子 STEP 2

- メイン
- ・ハンバーグに挑戦



ハンバーグに挑戦

◆活動の様子 STEP 3

- ・果物の切り方
- ・副食とデザート



果物の切り方

◆活動の様子 STEP 4

- 修了検定
- お家の人に習った料理を作ろう！



◆完成！



味噌汁の作り方・包丁の使い方



ハンバーグに挑戦



副食とデザート

◆効果（参加者の声等）

- 最初は包丁が怖くてあまり料理をしていなかったけど、料理教室で包丁の使い方を学べて料理をするのが楽しくなった。
- 新しいお友達ができたり、料理の勉強になって良かった。
- 習ったことを教えてくれたり、毎回楽しかったと生き生きとして良かった。料理に興味を持ったり習ったりする場があってよかった。
- 自主的に学んでいたようで、できた料理がどれも美味しかったとどの回も満足して参加していた。とても良い経験ができたと思う。また、料理を作ることに興味を持つようになって、家でも「私が切ろうか？」と料理に参加するようになってきた。

令和5年度 作東公民館完成記念

「子どもたちみんなで人文字をつくろう」プロジェクト

◆ねらい（解決したい地域課題）

昭和48年に建設された作東公民館は、利用者が高齢化し若年層の利用が減少していた。新公民館が令和5年11月に完成したのを機に、子どもたちの関心を高め、幅広い層が利用する公民館にしていきたい。

◆活動の様子

旧作東公民館に掲示されていた写真



▲昭和56年10月の公民館周辺

この写真作成がきっかけで結婚したという松本さんたちを中心に作成されたもの

その松本さんご夫妻の長男が今回のドローン撮影を担当

地域を支えてきた方々の青年時の寄せ書き

▲裏側に寄せ書きがありました

12月17日の一般見学会に先行して子どもたちが館内を見学。玄関ホールのクリスマスツリーが出迎えました。

12月15日作東中学校に作東地域の子どもたちが集まって人文字作



▲ドローンに向かって赤い紙を掲げます



▲子どもたち約300人が人文字作成



▲人文字撮影のあと新公民館を見学

◆成果と課題

旧公民館取り壊し前に、玄関ホールに掲示されていた畳1畳分の写真を取り外したところ、裏面に寄せ書きがあり、昭和56年に作東町農業後継者クラブの若者達が公民館周辺を山上から撮影し、引き伸ばして作成したものと判明した。新公民館は11月に完成し、年明けからの開館に向けて準備をしている。12月15日に隣接する作東中学校に地域の幼保小中の子どもたち300人余りが集まり、人文字を作ってドローンで空撮。裏面に寄せ書きをして、新公民館の玄関に掲示する。

人文字撮影後には、子どもたちはできたての公民館を先行して見学し、関心を持ってもらった。今後、子ども向けの公民館事業を工夫し、次世代を担う子どもたちの参加を促進したい。

早島町中央公民館

はやしま学「まなびの舎」

◆ねらい（解決したい地域課題）

地域人材の高齢化により、後継者が不足している。そこで、受講者が個々の学びを地域づくりに生かし、地域人材として活躍していく仕組みを作ることを目的として、はやしま学「まなびの舎」を実施している。単位制の様々な分野の講座を実施しており、30単位以上を取得した受講生は、「はやしま学応援サポーター」と認定され、講座運営への参加等ができるようになる。また、100単位以上を取得した受講者は「講師」と認定され、自身で講座を実施できるようになる。他団体が主催している一部講座も「まなびの舎」の単位として認定する等、連携も進めている。

◆活動の様子



小学生と合同実施「お魚探検隊」

早島の水路にはどんな魚がすみ、どのような環境なのでしょう。小学生と合同で種類の調査をしました。意外に多くの種類が見つかり、地域の自然を知る機会になりました。

川崎医療福祉大学の学生と連携「フレッシュ健康栄養教室」

大学生が講師として実施する健康講座。元気で楽しく生活するための知識、食事、運動などを試食や体験を交えてお伝えします。



講師認定者が企画した講座「史跡ウォーキング」

100単位を取得して講師となった受講生が企画した講座。ご自身の得意分野である歴史を題材にした史跡をめぐるウォーキングです。

◆効果

地域の歴史や自然、課題をテーマとして取り入れた講座が多いため、地域に関心を向けてもらうきっかけとなっています。現在、20名以上の受講生が講師認定を受けており、その中の5名の方が講師として講座を実施した実績があります。また、講座の中で受講生同士の交流も深まり、コミュニティを形成する一助にもなっています。今後も、魅力的な講座を継続して実施することで、講師認定者を増やし、学習成果を地域のために役立てていただきたいと思います。

実践報告

里庄町
中央公民館

手話サークル「わかば」と文化協会「ちぎり絵部」の交流会

【ねらい】（解決したい地域課題）

里庄町は平成31年4月1日より「里庄町手話言語条例」が施行され、手話の活動が盛んです。それでも、現実としてろう者一人ではなかなか体験できないことがあり、いろいろな場で我慢していることが多いそうです。ろう者が自己選択・自己決定をして社会参加できる町を目指して交流会がしたい。昨年度は公民館がつないで文化協会「陶芸部」との交流会を実施しました。その後手話サークルが公民館の虚空蔵大学（高齢者学級）の総合講座で手話を教えてくださり、活動の場を広げていただいています。今年度は、さらなる活動を自立して行い、日々鍛錬して身に付けてきたことを地域のために活かし、理想とする町を実現して町が元気になってほしいと思います。

今日は、柿をちぎり絵で作ります。ちぎり絵部の方が優しく教えて下さると、分からないことを手話サークルの方が通訳して下さいます。



細かい作業でしたが、それぞれ味のある作品ができました。一人ひとり同じでないところがおもしろかったです。集中できるのが良かった。有意義な時間でした。また交流したい。ろう者もそうでない方も、みんな笑顔で生きいきしていました。



虚空蔵大学（高齢者学級）の総合講座で、二胡の先生の呼びかけに「わかば」さんがご協力くださいました。代表の山本さんが手話についてお話しくださり、教えていただきながら、二胡に合わせて「ふるさと」を手話で歌いました。



虚空蔵大学総合講座 二胡と手話歌

【効果】今年度は手話サークル「わかば」との年3回の交流が文化協会の正規の活動計画として承認されました。双方の交流は、手話の認知、ろう者と健聴者とのコミュニケーションが取れ、ろう者が一般の方と変わらず豊かな人生を送ることのできる町の実現に向けて、確かな一歩を踏み出しました。

今年度の「わかば」さんは、文化協会と活動内容について具体的な話し合いを行い聴覚障害者・手話学習者の体験の場を作ったり、必要な研修会のために自分たちで講師を招いたりして日々公民館の場を活かして知識や技術を磨いています。そして、そこで身に付けたものを、町内の小中学校や地域のふれあいサロンなどで実践して、聴覚障害者や手話について伝えて下さっています。「ちぎり絵部」からは、「喜びの音が聞けて良かった」「手話を覚えました」という声。高齢者学級のオカリナコンサートでは、自然に手話が出ました。小学校の学芸会では、5年生が体の一部のように心を込めて手話を表現していました。「わかば」の皆様の地道な活動あってのことですが、この2年で学びや活動の場が広がり、公民館も地域で活躍する団体が育つ場として役割を果たせていると思います。他の団体も次々と地域で活躍して下さっています。これからもみんなが元気になれる町を目指し、公民館の役割を果たしてゆきたいと思います！

矢掛公民館

プログラミング教室

◆ねらい（解決したい地域課題）

2020年から小学校に新しく導入されたプログラミング教育は、論理的思考力や創造性、問題解決能力等の育成を目指して始まっており、様々な取り組みが実践されている。本公民館では、ドローンをプログラミングにより制御する学習を通して、子どもたちが楽しみながらプログラミングを体験することのできるプログラミング教室を計画した。

◆活動の様子（写真等も入れて）

まずプログラミング言語のスクラッチでドローン制御のプログラムを作成する

プログラムが日本語でわかりやすいので、初めてでもドローンの動きを簡単に変えることができたよ。



作成したプログラムを実行して、ドローンを自由に動かす



少しプログラムを書き換えるだけで、それがすぐにドローンの動きの変化につながっている。いろいろな動きを試すことができ、とてもおもしろい。



◆効果

- ・児童が興味を持って主体的にプログラミング授業に取り組めた。
- ・ドローンを「飛行させる」ためのプロセスを踏むことで問題解決力や論理的思考力が養われた。
- ・身近なアプリケーション等で使われるプログラミング言語「スクラッチ」を基礎から学べた。

夏休み学習会 ～美川のわくわく夏休み～

◆解決したい地域課題

「火をおこす。刃物を使う。川に入って魚を捕まえる。」など学校ではできない体験を通して子ども達の生きる力＝非認知能力を伸ばすし、たくましい子どもに育てる。

◆活動の様子



水のきれいな美山川に住んでいる生き物を調べています。草刈りは児童のお爺ちゃん達にやってもらいました。池でザリガニ釣りもしましたよ。

盆踊りの練習
今年小学生と高校生も盆踊り大会で活躍する予定でしたが荒天で中止に(T-T)



保護者(祖母)と栄養委員さんをお願いしてカレーライスを作ってもらいました。



空き缶積みゲームをして、地域ミニデイサービスの高齢者と交流



進化した流しそうめん

以前は老人クラブをお願いして子ども達の方も余分に茹でてもらっていたのですが、今年は自分達で竹を切りに行って流す台や食器を作ったり、火を起こしてそうめんを茹でる体験もしました。
(校長先生が怖くて出来ないような事も公民館ではやっちゃいます)

◆効果(参加者の声等)

- ・自治会頼みだった公民館専門部員は高齢化で選出が困難になってきました。そこで児童の保護者にボランティアをお願いするように切替つつあります。その結果、新しい人たちを巻き込んで子どもたちが普段接する機会の少ない学校の先生や家族以外の地域の人たちとの交流が増えました。
- ・小学生だけではなく、ボランティアで中高生も大勢参加してくれています。
- ・自分達が育った地域で楽しい体験をした思い出があれば、成長してからも故郷をなつかしく愛する人になると期待しています。

ねらい（解決したい地域課題）

- ・昨年度まで、夏休み学習会の3時間目は持参した課題を終えて退屈している子や、段々と集中力が欠けてくる子が多くみられた。2時間体制にした年もあったが、3時間が良いとのアンケート結果により、みんなで楽しんで学べる講座ができないかと考え、3時間目は毎日異なる題材の出前講座を計画した。
- ・茶道体験や地元矢掛高校サイエンス部による科学実験、環境問題も視野に入れた体験教室も実施し、日頃関わるのが少ない分野にも興味を持ってもらえるよう工夫した。
- ・地元との関わりが希薄化している中高生ボランティア「小田隊」と児童との交流を図る。

活動の様子

防災学習 《学習会》

- ・西日本豪雨災害後に公民館に公衆電話が設置されたが、使い方が分からない児童がほとんどだった。
- ・災害時に便利な公衆電話や災害伝言ダイヤルの使い方について学んだ。



【（公）日本公衆電話会】

交通安全 《学習会》

- ・道路標識のビンゴ大会で、楽しく標識を学び、反射実験メガネなどで反射材が夜道に重要なことを学んだ。
- ・またパトカー見学や普段は見ることのできない非常用のグッズを手にするなど貴重な体験をした。



【井原警察署 & 役場町民課の出前講座】

ウン知育教室 《学習会》

- ・朝ごはんを食べることの大切さや食べたごはんがどのようにしてウンチになるのかなど、体のしくみについても勉強した。



【岡山ヤクルト販売（株）】

絵本の読み聞かせ 《学習会》

- ・イラストを組み合わせるとどんなお話になるのかみんなで想像し、また大きな絵本や紙芝居を読んでもらった。



【図書館出前講座】

おっカレーライス 《学習会》

- ・学習会最終日は、みんな毎日勉強がんばったね！お疲れさま！の気持ちを込めた手作りカレーをみんなで食べた。



【栄養改善委員 & 中高生ボランティア】

《体験教室》 茶道体験

- ・ホールに畳を敷き、茶道を体験した。茶道の心得「和敬清寂」の精神からお菓子のいただき方、抹茶の点て方などの作法を学んだ。



【茶道裏千家】

《体験教室》 科学のふしぎ

- ・「手でつかめる水」の作り方や原理などを説明してもらい、実際に1人1人つかめる水を作り、持ち帰った。



【矢掛高校サイエンス部】

《体験教室》 廃食用油石鹸作り

- ・廃油を使って廃食用油石鹸を実際に作った。環境問題やごみ問題の勉強も兼ねた。



【岡山県消費生活問題研究協議会矢掛支部】

成果（参加者の声）

- ・楽しかった、またやりたいという声が多く聞け、3時間目が有意義な時間となった。
- ・レクレーションや工作、調理などをやってみたいという声があり、来年の手掛かりとなった。





(森の宝石：ブッポウソウ)

野鳥のキッズレンジャーになろう！ ～紋付ガラスの舞う村に～

【講座概要】

新庄村内に生息する野鳥を観察することで、地域にどのような鳥が根ざしているのか、また鳥にとって過ごしやすい環境はどのようなものを学びます。とりわけ、新庄村でもかつて身近な鳥であった「ブッポウソウ（愛称：紋付ガラス）」についての講座が中心です。現在絶滅危惧種としても登録されているブッポウソウが、近年新庄村において数十年ぶりに営巣の痕跡が確認されました。この機会にブッポウソウとはどのような鳥なのかを知り、新庄村の自然の豊かさや保全すべき環境について学び、考えます。

🌸第1回「バードウォッチング超入門」



新庄村にはどのような野鳥が生息しているのか…？双眼鏡を片手に鳥の観察に向かいました。そして、およそ8種類の鳥を見つけることができ、野鳥レンジャーの第一歩を踏み始めました！

🌸第2回「ブッポウソウ特別講演会＆観察会」

日本野鳥の会岡山県支部の協力のもと、ブッポウソウについての特別講演会＆観察会を行いました。ブッポウソウから見た新庄村の自然環境はどのようなものなのか。野鳥だけでなく新庄村の自然環境にも詳しくなりました！



🌸第3回「野鳥の巣箱を作ろう」

第2回の特別講演会でブッポウソウの生態について学びました。しかし、最近はブッポウソウの巣作りに適した場所が少なくなってきました…。そこで今回は野鳥のために巣箱を作りました！



🌸第4回「野鳥の調査と巣箱の取り付けをしよう」



いよいよ巣箱の調査・取り付けを行います。すでに設置していた巣箱の中身を確認し、ブッポウソウがどのように子育てをしていたのか調べます。また、第3回で作った巣箱の設置も行いました。

【講座を終えて】

- ◆年間を通しての講座を行うことで、回を重ねるごとに、どんどん野鳥への理解・関心が高まっていく姿が見受けられました。
- ◆普段飛び交っている野鳥について興味を持つことで、自分たちが生活している環境や自然へ目を向ける機会となりました。



※講座参加者にはオリジナル野鳥キーホルダーをプレゼント



勝央町公民館

ただ集う場「マイルーム」

◆ねらい（解決したい地域課題）

- ① 繋がりづくり ② 1人ではできないことをやれる場 ③居場所

◆活動の様子

公民館の大ホールを、開放します。
公民館の職員が居るので、安心して来てね。

ルールは3つだけ！

家族に、
「公民館に行く」
と伝える。

否定しない。
傷つけない。

電子ゲーム
は無して。
(カードゲーム・
ボードゲームはOK)

- ◇ 友だちと遊ぶ場所が欲しい。
- ◇ 何もすることが無いから、暇つぶししたい。
- ◇ カードゲームの相手がいらないかな。
- ◇ 誰かと話したい。
- ◇ 勉強の合間の息抜きがしたい。



▲初対面でも共通のカードゲームで仲良し

**主催者も参加者も
「負担感ゼロ」の自由さ**



▲やりたいことボードに書いたことを次回やろう！



▲【全体風景】公民館にある物は使用OK

◆効果（参加者の声等）

「マイルームの日に合わせて、遊ぶ約束をするんよ。」と小学3年生が公民館に集まります。
「受験生になるから、来年はマイルームに来れないかも。」と、毎回、生き抜くに来る中学3年生。
「得意なポケモンカードなら教えてあげるよ。」という20代青年も参加。「小学生が、どんな遊びをしているのか気になって。」と幼児親子が覗いてくれます。みんなの居場所になって、繋がりができていきます。日頃は出会わない人と同じ空間に居ることで、関係性が生まれていっています。

奈義町公民館



プロに学ぶ歌舞伎講座

歌舞伎の化粧を体験するワークショップ

◆ねらい（解決したい課題）

奈義町に伝わる伝統芸能「横仙歌舞伎」は近年、長年にわたる活動によりその功績が称えられ、様々な賞やニュースで取り上げられ、県内外から注目を集めるようになってきました。が！しかし、実情は高齢化等により後継者が減ってきているのが現状です。

本企画では、その道のプロに直接指導を乞うことで、現在携わっている方々に自信をつけていただき、また、企画により新たな人材を広くから確保し、新しい仲間づくりを築くことを目的に開催しました！



化粧の塗り方だけでなく、隈取など、それぞれ意味があること等、一つひとつの化粧に意味があることについて学びました。
また、狙い通り興味を持つた新しい参加者も来場されました。今後も来てくれるか…期待！

特色ある地域の伝統を活かした仲間づくり



赤い隈取は正義の味方！
かっこいい化粧で良かった！



どんな顔になるのかな…



◆効果（解決したい課題）

役者ごとの化粧にいろいろな意味があることがわかりました！
意味が分かると今後、歌舞伎のお芝居を見るのが楽しみです。
予想以上に細かいことに気を使うプロの技術に感動した！

など、難しそうな歌舞伎のお芝居でも、意味が分かることによって、敷居が下がり、世界に入りやすくなってくれたと思います。

今後も活動を通じて、広く輪がつながってくれることと思います！

西栗倉村 あわくら会館



あわくら会館
AWAKURA-KAIKAN



あなたもCDショップ店員に！ 「アワレコ」コーナーを作ろう！

ねらい

- ①人口1350人。音楽関連の店もなく、音楽/映像文化に触れる機会が少ない西栗倉村。そこで某CDショップのような展示を作成し、音楽文化の振興を図った。
- ②村民の自己表現の機会を作るため、村民、来館者が参加できる「共創型展示」を目指した。

ポイント①

本家タワーレコード
公認ロゴ！

OUR
RECORDS

西アワ倉村なので「アワレコ」と名付け、本家のタワーレコードさんに直接連絡したところ、ロゴの作成&書籍寄贈していただきました！！（「OUR」もタワーレコード案）

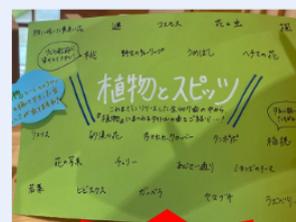
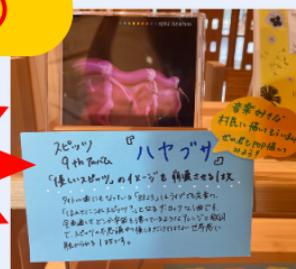


これまでに「スピッツ」「ジブリ」「韓国エンタメ」など幅広いジャンルで展示を行いました。

ポイント②

村民による
お手製POP！

実際にCDを並べたり、「植物とスピッツ」という村民の人柄が出た切り口で曲紹介をしたり、併設されている図書館から関連本を並べ借りれるように！



来館者が
付箋で参加！



「好きなジブリの名セリフは？」など、答えたくなる質問で来館者から回答をたくさんもらいました！

その他取り組み・これからについて

その他アワレコ以外にも「音楽」をテーマに、月1ドラム講習会、カホン作り、フリーギター/カホンの設置などを、取り組みました！その結果、音楽の話題で村民同士が仲良くなったり、曲作りの相談が行われるなど、音楽を通じた交流がじわじわ生まれています。目指すは村内で音楽バンドが発足！文化祭などのステージで発表してくれるたら嬉しいなと思います。詳しくは右側QRのインスタグラムにて！

あわくら会館
instagram



未来商店街

2023
開催!

77



【解決したい地域課題】

中高生が地域団体等と連携して地域活動を行うことで、地元の大人との結びつきや地域の活性化を目指す。地域の関りが少ない中高生の社会参加とまちづくり活動の充実を図りたい。

ポテト

+
ゆず胡椒
マヨソース



町の特産品ゆずを使った
柚子胡椒+マヨネーズ+柚子果汁



大事にしたいことは…

- ☆久米南町の特産品を使う！
- ☆地域の人に関わっているもの！
- ☆今あるものを“工夫”する！

久米南バーガー
 ☆町の特産品ゆずときゅうりを使用
 ☆町の事業者「パンのいえブレ」&「中島プロイラー」が協力
 ☆SDGsな取組み 廃棄になる曲がりきゅうりをピクルスにし使用

今年度のテーマは、「久米南町にある商品をよりよくするために」に決定！中高生の「やってみたい」アイデアを活かす！！

久米南バーガーがもっと売れるように、未来商店街実行委員会でサイドメニューを考案。包装に合うシールも考えることになりました。

コミュニティセンター調理室を活用。事業者の方と一緒にナゲットやポテト、ディップするソースの試作を行いました。結果、今年度はポテトにゆず胡椒とマヨネーズ、ゆず果汁をまぜたソースを作ることになりました。（特産品：ゆず）

練習のため、道の駅くめなんで久米南バーガーを販売。自分たちで出来たてのバーガーをお客さんに手渡しました。応援してくれているお客さんもたくさん来てくれ無事売売。

当日は、道の駅くめなんの「秋んど祭り」に出店。練習を生かしスムーズに販売ができました。この日も準備した50個の商品は完売しました！

久米南学で開発した

久米南バーガーの

サイドメニューを考案！

久米南町内の中高生が主役となって、町をよりよくするアイデアを地域の大人と一緒に考えていく！

【成果と課題】

中高生が地域の大人と一緒に町の特産品を使った商品開発を行いました。大人は子どものアイデアを共有し一緒に楽しんで好奇心や探求心に寄り添いました。そして町内事業者の協力のもと、子どもたちの「やってみたい」ことが実現しました。

課題は年々子どもの参加者が減少していることです。子ども自身が能動的に参加することは限界があるため、親を巻き込んだ声掛けや他事業との連動を検討していく必要があります。



みさきみんなの台所会による

郷土料理教室



きっかけ・ねらい

「みさきみんなの台所会」は美咲町保健福祉計画の食育推進プロジェクトにより発足した高齢者を中心とした団体。「若い世代への郷土料理の伝承」・「地元で採れた農産物を美味しく食べる」・「高齢者と若い世代との料理を通じた情報交換」を目標として活動していることから、令和4年度より生涯学習講座としても講師を依頼し、さば寿司・くさぎ菜のかけめし・こんにゃく・味噌・和菓子など、色々なメニューを紹介してもらっている。



「くさぎ菜のかけめし」に使う「くさぎ菜」を摘んでゆでる作業を行いました！



最近ではなかなか手作りすることがないかしわ餅を作りました。



さば寿司作りには、日頃料理をしないという若い男性の方も多く参加していただき、講師の皆さんと交流を深めました。



こんにゃくは、こんにゃく芋を切るところから。思ったより硬く力があるようです。

効果（参加者の声等）

「昔おばあちゃんが作っていたのを思い出す（味噌作り）」「初めて作ったが思ったより簡単だったので家でも作ってみたい（桜餅作り）」「県外出身なので美咲町に引っ越して来るまで食べたことがなかった（さば寿司）」など、地元美咲町の郷土料理を知る・次世代へ伝えていくきっかけになっていると感じる。また、講師をお願いしている「みさきみんなの台所会」の皆さんの活動と交流の場にもなっている。

